

ウクライナの学生 高山に

ニッポンアカデミーが受け入れ



ニッポンアカデミーの職員と記念写真を撮るウクライナ人女子大生ら＝26日午後4時30分ごろ、高山村

学生に日本への避難を呼びかけ、希望者を受け入れた。

ウクライナから避難してきた17～21歳のウクライナ人女子大生9人が26日、学校法人ニッポンアカデミー（前橋市）の東京デュアラ一校（高山村）に到着した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、同校にある学生寮で1週間の隔離期間を過ごした後、同市の市営住宅へ移り、日本語の授業などを受ける。

同法人はウクライナで日本語を教える大学を通じて

リビウ工科大で日本語を専攻していたヤツニアク・アンナさん(19)はウクライナ西部の都市リビウで生まれ育ったが、ロシアの軍事侵攻開始後にイタリアへ避難。その後、大学教員からの説明を受けて渡航を決めたという。「日本に行くことが夢だった」と話し、「いつかウクライナの日本大使館で働いて、日本の文化を母国へ伝えたい」と目を輝かせた。

ヤツニアクさんら9人は来月6日から同法人が運営する日本語学校、NIPPON語学院（同市）で授業を受ける予定。柏崎妙美学院長は「落ち着かない日々を過ごして来たと思う。目標をかなえられるように、少しでもサポートしていきたい」と語った。

（須永彪月）